

令和 8 年度第 1 回岩国警察署協議会会議録

開催日時		令和 8 年 6 月 2 6 日（金） 午後 3 時から午後 5 時までの間
開催場所		岩国市麻里布町一丁目 3 番 1 6 号 岩国駅前交番 3 階 岩国駅前地域安全センター
出席者	委員	塩田会長、原田副会長、山田委員、松田委員、楯田委員 福多委員、牛島委員、大島委員、河野委員、佐伯委員 山中委員、水鶏口委員、成瀬委員 計 1 3 名
	警察署	署長、副署長、地域官、刑事官、警備官、会計主幹、交通官 警務課長、警察安全相談課長、生活安全課長 計 1 0 名
議題		特殊詐欺被害防止対策
1 会長挨拶 新年度最初の協議会で、岩国署の皆さんも新体制となり、フレッシュな感じがする。 昨日は、東北地方で地震があり、全国的には大雨で新幹線の遅延や、九州方面の飛行機が欠航になるなどの影響が発生している。岩国においても、本日は大雨の影響で欽明路道路や高速道路が通行止めになっており、最近の大雨などの災害はぞっとするようなひどい状況で、警察の皆さんも対応に苦慮していると思う。 今日は、特殊詐欺について皆さんの意見を頂き、協議したいと思う。この 1 年、皆さんが親睦を図りながら警察署の方と様々な意見を交わし、活発な協議会にしたいと思うので、よろしくお願いします。 2 署長挨拶 省略 3 業務推進状況説明 (1) 犯罪情勢 ア 刑法犯認知・検挙状況 イ 犯罪抑止重点対象犯罪の認知状況 ウ 岩国警察署刑法犯・自転車盗認知件数 (2) 特殊詐欺発生状況等 ア 発生件数・被害額 イ 年代別（県内）		

ウ 被害防止対策

(3) 人身安全対策関係

(4) 交通情勢

ア 交通事故発生状況

イ 交通事故抑止対策

4 諮問事項説明

特殊詐欺被害防止対策

5 協議

(委員)

詐欺とは言えないグレーゾーンの押し売りや、押し買いが、結構横行しているように感じる。

特殊詐欺はもちろんだが、私たちのところに「不要な物はないか」という電話が毎日のようにかかり、勧誘がしつこくて本当に困っている。

警察でどうにかならないか？何か対策はないか？と思っている。

具体的な例として、「〇〇を買って下さい」という押し売りや、「土地を売って下さい」という押し買いである。実際に私も叔母が押し買いに遭い、親類から、「今日、業者が来て契約の話をする。土地を売るかもしれない。一人暮らしなので、立ち会ってくれ」と頼まれたので、叔母の家に行くと、高齢の叔母は、来客ということで座布団まで用意して業者の話を聞いていた。

しかし、何かおかしいと感じたので、業者に「立ち合いに来た」と告げると、「とにかく今日中の契約じゃないといけない」と言い張るので、パンフレットを求めたが、パンフレットもない。ひたすら「詳しく説明するので、今日中に印鑑を押してもらわないといけない」の一点張りだったので、理由をつけて帰らせた。

業者は、大阪の方から来たとのことで、名刺を置いて帰ったが、とにかく今日中に契約をしないとけないと言い続けていた。

また、ほかにも「あなたが作った俳句を文化祭に出展しませんか」というダイレクトメッセージや、勧誘の電話が何度もかかってくる。作った俳句は20年も30年も前に作ったものなので、どこで見つけたのか不思議に思うが、業者は「ものすごく上手だ」と持ち上げて、「子供さんのためにもぜひ文化祭に出すべきだ」と勧誘してくる。相手の話を聞いていると、20万円もの高額な出展料が必要と言われたので、勧誘を断ったが、出展する一歩手前まで話が進んでしまった。

文化祭自体は本当に開催されているようだが、自分が作った俳句を子供たちに残したいという心理に付け込まれた方が、高額な出展料を払わされた文化祭なのだと感じた。

こういったグレーゾーンは、警察も対応が難しいのではないかとと思っている。

押し買いとは別の話になるが、山手町の交差点で行われた若手警察官を対象とした交通の手信号の研修を昨年に引き続き視察した。研修を視察して、若手の方が頑張っているなど感じた。

また、市内の高校で行われた鍵かけキャンペーンも視察したが、最初は、仕方なく参加させられた感があった生徒たちも、やっているうちに面白くなってきたのか、「今日、何人にティッシュ配れたよ」と興奮気味に話している姿も見られたので、警察だけでなく、生徒が参加するイベントに取り組み続けることに意味があると感じた。

次に、麻里布三丁目の公園に暴力追放の看板が設置されているが、老朽化が激しく自治会から市に撤去するように頼んでいるので、多分撤去になると思う。

最後に、自治会で敬老会を開催するが、その時にお年寄りに対し、警察で何か寸劇をやってもらいたいとの話が出ている。寸劇の内容は、詐欺被害の防止になると思うが、楽しいもの、笑いが出るようなものを頼みたいと考えている。

(生活安全課長)

まず、押し売り、押し買いについては、委員ご指摘のとおり、グレーゾーンの事案が非常に多い。

押し買いについては、業者がいきなり家を訪問し、最初は「茶碗を売って欲しい、不要になった鞆などを売って欲しい」などと言って家に上がり込み、言葉巧みに貴金属類や宝石を持っていないかを聞き出したり、勝手に貴金属類を探して、無理やり安値で貴金属類を買い叩くケースが多発している。

対策としては、毅然とした態度できっぱり断ること、玄関に「セールスお断り」と掲示して拒否の意思を明示することが大切である。

また、家の近くから「今から行ってもいいですか」と電話をかけ、すぐに訪問販売に移行するケースが多くあることから、最初の電話に応じないこと。ほかに、親族に相談できる環境を作っておくことが非常に大切なので、対策の参考としていただきたい。

次に、高校で行った少年セーフティリーダーズ活動は、生徒自身の意識向上の面で大変大切だと考えているので、今後とも引き続き取り組んでまいりたい。

老朽化した暴力追放の看板については、既に市と協議しており、近々撤去の予定となっている。

最後に、寸劇については、昨年、管内各所で取り組んだが、担当者が異動したので、今後の対応については検討させていただきたい。

(委員)

私のところに迷惑電話がかかってきたときは、通話状態のまま放置している。これまで、私のところに詐欺の電話がかかってきたことがないので、詳しい手口は分からないが、捜査をしっかりやっていただき、犯人を捕まえて欲しい。

(刑事官)

オレオレ詐欺で説明すると、「俺だよ、俺、損失を出したから金がいる。俺が取りに行けないから部下が取りに行く」とか「上司が取りに行く」という詐欺の電話をかけ、犯人が現金を受け取りに来る。

これを警察では、現場手交型と言っているが、特殊詐欺の電話がかかってきた最初の段階で、詐欺だと看破された方から警察に情報提供があり、捜査に協力していただける方にだまされたふりをしていただく。その上で、犯人と約束した現場に警察官を配置し、現金を受け取りに来た犯人を現行犯的に捕まえる、だまされたふり作戦という手法がある。

諮問事項の説明で、特殊詐欺は現場手交型が多いと説明したが、SNS型詐欺の場合、現場に犯人が来ないというパターンもある。

しかし、今年、検挙したSNS型投資詐欺事件の中には現場手交型の事件もあり、当署においても、実際にだまされたふり作戦でSNS型投資詐欺事件の犯人を捕まえている。

委員の皆さんやご家族の方に特殊詐欺の電話がかかってくれば、まず相談していただき、もしご協力いただけるのであれば、だまされたふり作戦を積極的に実施したいと考えている。

ただ、やはりご高齢の方にとっては、犯人が来るということで怖いと感じられる方もいると思う。警察としては、あくまでご協力していただける方に限ってということになるが、捜査への協力をお願いすることになる。

(委員)

このような捜査のときには、身分証明書がいるのか。

(刑事官)

だまされたふり作戦では、実際に詐欺の電話を受けた被害者の方の協力を得て行うものであるため、身分証明書は必要とされていない。

一方で、ニュース等で見られた方のいると思うが、「闇バイト」の募集に限ってであるが、警察官が仮想の身分証を使って犯人グループを検挙する「仮想身分捜査」という捜査手法では、仮の身分証明書が必要となってくる。

具体的な捜査手法についてはお答えできないが、日々変化する犯罪に対し、新たな捜査手法の活用を検討しながら、検挙に努めていきたいと考えている。

(委員)

連合会自治会で高齢者に対していろいろと話をする機会があるが、詐欺に関する話をする、「俺は絶対に騙されない。俺は大丈夫」というのが大半である。

関心はあっても、自分のところには詐欺の電話はかかってこない。詐欺にはひっかからない、と自分勝手なバイアスをかけている。

そこで警察の方をお願いをしたいのだが、こういった無関心層の方に、関心を持たせる何か効果的な方法はないか？他の地域で効果があつた方法があれば、教示していただきたい。

高齢者の多くが無関心である。詐欺の被害に遭って、被害に遭ったなどという人はまずいないが、内心、関心はあっても無関心を装っているのかもしれない。何かインパクトのある事例はないか、というのがひとつ。

次に、先ほど委員が言われたが、私の地域でも社会福祉協議会で敬老会をやるので、詐欺に関するインパクトのある寸劇をお願いしたい。

先ほどの説明で、岩国署では独自に等身大パネルを作っていたが、この等身大パネルは、貰えるものか？

(生活安全課長)

等身大パネルは金融機関のＡＴＭコーナーなどに設置しており、配布はしていない。

(委員)

テレビや新聞を見ていると、いつまでたっても詐欺がなくなる。何で詐欺の被害がなくなるのか不思議である。やはり、欲を出してしまうということなのか、と思う。

もう少し、関心を持ってもらえるような、うわっと思えるような何かインパクトのある方法がないかと考えてみても、妙案はなかなか浮かばない。

(署長)

これは、警察としても非常に頭を悩ませている問題である。「俺は絶対騙されない」と言っている人に限って被害に遭われている。

では、どうすれば被害を防止できるのかだが、自分は騙されないと思っている人に、警察が詐欺の手口を教えたり、説得しても、おそらくあまり効果は無い。むしろ、それよりも物理的に犯行グループとの接触を遮断する、先ほど説明した詐欺対策アプリや、固定電話に国際電話がかからないようにするなど、半強制的に止めていただく方が早いと思う。

警察が巡回連絡で訪問した時に、そもそも犯行のアプローチを物理的に遮断する対策を高齢者本人やご家族に分かりやすく教示して入れてもらう方が、説得して翻意するのを待つよりも効果的と考える。

(委員)

私の実家は両親が亡くなったので、今は家だけ残っており、不用品が沢山ある。

今後、自分の終活をしなければならないと思っているところに、家の固定電話に業者から不用品の買取りの電話が頻繁にかかってくる。

業者は、言葉巧みに我々の心理を突いているのだと思うが、自分では処分はしたいと思いながらも、いざ、業者に「買い取りますよ」と言われると、心が揺れ動いてしまう。

一旦、業者を家に入れると、その次は何か変な事に巻き込まれはしないか、と思い直して「特にありません」と断っているが、不用品の買い取りから、何か別の犯罪に繋がったことはあるのか？

(生活安全課長)

委員ご指摘のとおり、実際に犯罪に繋がったケースもある。昨年、検挙した事件

だが、県西部の方が、遺品整理で業者に処分を依頼したら、処分を依頼した遺品が、当署管内に不法投棄されていたという事件もある。

不法投棄された物の中に氏名等があったので、事情聴取したところ、「遺品整理で業者に頼んだ」ということだった。業者に対する捜査の結果、格安で遺品の処分を引き受け、遺品の運搬を他の業者に依頼し、運搬業者が不法投棄したことが判明した。

したがって、業者に処分を依頼するときは、信頼できるところ、評判が良いところに依頼する方が良いと思う。

(委員)

真っ当な仕事をしている業者が、ダイレクトに買い取りの電話をかけてきて、仕事をすることもあるのか？

(生活安全課長)

いろんなパターンがあると思われる。中にはチラシを配って、「何でも屋」を名乗る業者もいる。

(委員)

一所懸命やってる業者もいるし。

(委員)

良い業者と不良業者を仕分けるは難しい。

(委員)

詐欺の事件をニュースで見ると、被害に遭われた方は資産があるように感じる。素人なので分からないが、犯人はランダムに電話をするのか？それとも裏で名簿が出回っているのか？

犯人は家までお金を受け取りに行っているが、住所が分からないと受け取りには行けない。

名簿に住所が載っていなければ、嘘の電話をかけた相手に、「住所を教えてください」と聞いてしまい、「何であなた私の住所知らないんですか、知っているから電話をかけてきてるんでしょ」ということになるはずである。

やはり、裏で出回っている名簿には、住所やこれだけ稼いで、預貯金がこれだけある、という個人情報が洩れているのが実情ではないか。

(生活安全課長)

〇〇会社から大量の個人情報が流出したというニュースも見られるが、流出した個人情報を犯人グループが悪用して電話をかけてくるケースと、ランダムにかけてくるケースの両方があると考えている。

(委員)

もう一点聞きたい。

若者が、詐欺などの犯罪の被害者にもなれば、加害者にもなる可能性がある。高校や大学といった教育機関に広報活動に行くことはあるのか？

(生活安全課長)

「ダメ絶対」という標語を聞かれたことがあると思うが、数十年前から薬物乱用防止教室に取り組んでいる。

現在、これに併せて闇バイトの加担防止広報に力を入れて取り組んでいる。

今は、ちょうど夏休み前の時期なので、当署管内の各学校に生活安全課員が訪問して、闇バイトと薬物乱用防止広報に取り組んでいるところである。

(委員)

これは学校の方から依頼するのか、それとも警察から広報させてくれと依頼しているのか？

(生活安全課長)

警察から依頼するケースもあるが、随分前から学校とは連携して健全育成に取り組んでいる。

(委員)

当校の学生にも是非お願いしたい。学生が加害者になる可能性もあるので、こちらからお願いしたい。

(委員)

私は、ちょっと思っていることを申し上げたい。

私は、金融機関で勤務しており、普段から金融防犯関係の仕事している。効果的な被害防止ということについて、普段から感じているのだが、特に特殊詐欺に関して、利用者が警告に見慣れてしまっているのではないかと感じている。

A T Mのディスプレイに「これは詐欺ではありませんか」などと注意喚起が表示されるが、利用者は画面を読まずにすっ飛ばす。特殊詐欺のCMや、色々な広告が表示されるが、利用者は「あ、これ詐欺の件ね」という認識で終わってしまい、内容まで読まずに飛ばしてしまう。

普段から特殊詐欺防止広報に見慣れすぎてしまい、伝わっていないという問題なのではないかと思うので、何か、もう少し注視するような仕掛け、若しくは、あえてボリュームを減らすとか、媒体を変えることも必要だと思う。

警察でも色々と対策に取り組んでいるから、今さら広報の方法を変更するのは難しいかもしれないが、今は、伝え方を変える時期にきてるのではないかと感じる。これは当社の職員においても同じで、いろんな情報提供があっても考え方が固まっているところがあるので、その点に関して検討ができれば良いと思っている。

もう一点。先ほど署長の説明にあった横断歩道における現場講習会で思ったことだが、取締りをするにしても同じ場所で1週間続けてやるというのは、凄く今の時代に合っていると感じた。

やり方は同じでも、受け手側の目線から見て、効果的になるような方法を考える。全く新しいやり方をするのは、難しいと思うが、やり方を工夫することによって、警察官目線ではなく、実際の受け手側の目線から見てこうだと検討した上で取り組まれていると思った。

詐欺防止対策にしてもそういった視点からの対策があると思う。

(生活安全課長)

貴重なご意見を今後の参考にさせていただきたい。

利用者が注視するかたちの仕掛けについて、受け手側の目線で考えてみようと思う。

大変参考になったのは、広報媒体一杯に文章を書いたら読まないという点である。最近、以前より広報文を短くしているが、今後ともさらに工夫を凝らし、受け手側の目線という発想で、しっかり広報に取り組んでまいりたい。

(委員)

今の話題で一つ思うことがある。私の両親は高齢なため、銀行の窓口で現金を下ろすのが大変で、私が付き添って行かないとなかなか引き出せない。

それなのに、何千万円という大金が送金された時の状況とは、いったいどうなっていたのかと思う。大変厳しい銀行の窓口で、どうやって何千万円も送金が出来たのか、検証していただくことはできないのかと思う。

銀行の窓口で、4千万円、5千万円を送金したというニュースを見ることがあるが、責める訳では無く、銀行の窓口で、どうやって銀行の確認をすり抜けて振り込ませたのか、というのが凄く気になった。

大金の引き出しや、振り込ませる手口が分かれば、具体的に手口を広報できるので、意外と効果的なのではないかと思う。

(生活安全課長)

委員ご指摘のとおり、振り込み方法は警察としても確認しているが、被害者の方が犯人グループから「銀行で下ろす理由を聞かれたら、リフォーム代金とか、仕送りすると答えるように」と言われ、銀行の窓口で犯人グループから言われたとおりに説明している。

そのため、行員もこれは本当かな、いやちょっとおかしいぞと戸惑う。中には、おかしいぞと感じて警察に通報して頂き、被害を防止できたケースもある。

業務説明の中で、3千万円の送金を防いだ事例を紹介したが、やはり高額になるとちょっと待ってとなるが、決して少額とは言えないが、数百万単位で小刻みに下ろすケースもある。

今後とも引き続き、振り込みを止められた理由や、止められなかった理由について

て確認してまいりたい。

(委員)

私は自治会長をやっているが、地区には大変多くの高齢者が住んでいて、敬老会もある。回覧で交番からミニ広報紙が届くが、高齢者はやはり、あまり読んでいないように思う。

先ほど話題に出た寸劇とか、等身大パネルなどは、凄く効果的な広報の方法だと思う一方で、詐欺防止のチラシが入っていても、また詐欺の事かで流されてしまっているように思う。

我が家でも、少年相談員の会議の時に配布された詐欺対策アプリのチラシを持ち帰り、私はアプリを入れたが、家族にいいものがあると見せても、妻も母親も入れていない、良かったら教えてくれ、という感じでスルーである。

だから、やはり詐欺対策アプリは、寸劇の時に警察官が説明だけして終わることなく、高齢者が自分でアプリを入れるのは面倒くさいのではないかと考えていただき、アプリのインストールを一緒にやってもらえたら、半強制的みたいなるかもしれないが、入れるのではないかと思います。

そうすると、かなり詐欺被害が防げるのではないかと思います。本当に寸劇もあるのなら、お願いしたい。

それから、警察官を名乗る犯罪が多いというが、やはり、我々市民からすると警察官は悪い人を捕まえるのだから、嘘をついたり、悪い事をする事は無いという意識がある。

また、もう一つ、警察からの電話ということで、捕まりたくない、何かよくわからないが、犯罪に巻き込まれたくないという心理がもの凄く働く。

協議会委員をやらせてもらい、警察の方を大変身近に感じているが、以前は、パトカーを見ると、なんでもなくても何かあるんじゃないか、とちょっと警戒するような感じもあった。

だから、「気軽に相談を」と言われても、一般の人にとって、警察に相談するというのは、ハードルが高いと感じることもあるように思える。寸劇で笑いを取りながら、警察を身近に感じてもらえれば、高齢者でも子供たちでも、ちょっと警察に相談してみようとなるのではないかと感じる。

(署長)

先ほど生活安全課長が説明したとおり、担当者が異動し、4月から生活安全課も新体制となった。寸劇については適任者を選定の上、実施について検討するので、ご理解いただきたい。

(委員)

寸劇は、先ほど話題に出た、「俺は大丈夫層」に効くかもしれない。

(委員)

2、3日前に和木町の方が、振り込め詐欺の被害に遭ったという記事が、新聞に載っていたので、ちょっと怖いと思った。私も両親には、詐欺対策アプリを強制的に入れておこうと思う。

2年に1回くらい、和木交番の警察官が名簿を持って訪ねてきて、家族構成などを聞かれるが、最近、ニセ警察官の事件も発生している。

私は、警察を信頼しているが、ニセ警察官による詐欺のニュースに接すると、家を訪ねてきた警察官に「本当にこの人に家族構成を伝えてもいいのかな」と感じてしまう。

家族構成などを教えても大丈夫なのか？

(生活安全課長)

私も若手の頃に巡回連絡に行った時、「今来た警察官、若いけど本当に大丈夫なんですか」と本署に問い合わせされたことがある。

巡回連絡は、皆様の協力を得てやっている警察活動で、警察官がご家庭を個別に訪問し、緊急時の連絡先などをお聞きし、何かあったときに、ご家族の方に連絡をとるために活用している。

そのほか、住民の方と面接した時に、犯罪の被害に遭わないよう防犯活動も実施している。

お聞きした家族構成などは個人情報なので、流出しないように厳重に管理し、個人情報の保護対策を講じている。

(委員)

私も詐欺対策アプリを入れてみた。途中で前に戻らなければならないという表示も出たので、いったんインストールをやめたが、しばらくして確認したらちゃんと入っていたので、意外と簡単に入れられたという印象を受けた。

先ほどの話題ではないが、アプリのインストールをみんなで一緒にやったら、そんなに時間もかからずに誰でもできると思ったので、自治会の会合などで「皆さん入れましょう、そんなに難しくないですよ」とやるのも良い方法ではないかと思う。

詐欺対策アプリのチラシは、保護司サポートセンターに貼っているので、保護司の皆さんが入れたか確認したいと思う。

スマホについて、私も時々アップデートされ、なんで設定が変わったのだろうと思う時がある。

自分が登録した友達以外からメッセージが全然入ってこない方は、もう入らないような設定がしてあるということだが、友達にアプリのインストールを頼んだ時にアプリにアドレス帳へのアクセスを許可する設定に変更されてしまい、登録していない人からメッセージが入ってくるようになったこともある。

SNSの危険性について、学生はよく知っているとは思いますが、こういうことをしたら危ないというのを学校や携帯会社の人と連携した講座があっても良いんじゃないかと思う。

先ほどの巡回連絡の話題に関して、私が20代の頃、当時住んでいた社宅に何かの聞き込みだと思うが、2人の警察官が訪ねて来て「何かありませんでしたか」と聞かれたことがあった。

私が「警察手帳を見せて下さい」と言ったら、「はい、ありますよ。良い事です」と言って警察手帳を見せてくれたので、その時は安心した。

しかし、現在は、ニセ警察官の事件もあるので、安心できないと思う。警察手帳を見せてもらっても、詳しくは見ていない。警察のマークしか見ていないような感じなので、警察官が来られたときに、何をもって、この人は岩国警察署の警察官だと判断してよいのかが分からず、ちょっと怖い気がする。

家に2、3人でいたら大丈夫なのかなとも思うが、男性の警察官ではなく、女性の警察官が来て下さると、家に1人であることにも配慮してくれていると思うかもしれない。

(署長)

ニセ警察官の騙し方として一番多いのが非面接型である。テレビ電話やSNSの画面越しというのが主流だが、一方で、直接、私服の刑事を装って訪問し、精巧に作られた偽物の警察手帳を提示したり、偽物の制服を着て家を訪問するということが、絶対に無いとは言い切れない。

したがって、確認の方法として、警察官は警察手帳を提示することや、所属・氏名を聞かれたら答えなければならないので、ちょっとでもおかしいと思ったら、「どこの署の、何課の誰か」を聞いていただき、申し立てた警察署などに電話して確認していただきたい。

警察官は、求められたら所属を答えることになっているので、電話で警察に問い合わせたときに「そんな警察官はいません」となれば、すぐに偽物の警察官と分かるので、警察署なりに確認するのが良い。

また、今の時代、ネットで偽物の警察手帳が出回り、3Dプリンターでも偽物の警察手帳が作れてしまうので、おかしいと思ったら、所属・氏名を聞いた上で、警察署なりに確認をしていただきたい。

(委員)

寸劇のテーマがどんどん増えていきますね。

(委員)

私が協議会委員になってすぐの頃だったが、和木町において、一人暮らしの高齢者のお宅を戸別訪問して、家の固定電話に受話器を取ると詐欺電話を警告するポップアップを取り付ける活動に同行した。

そのとき、高齢者の方が警察官の姿を見て、驚いた表情をされたが、私たちも警察官と一緒に詐欺被害防止のポップアップを貼る活動をしていると話をした。

警察だけでなく、市民も一緒にインパクトのある取り組みをしたら、一人暮らしの高齢者にも効果があるのではないかと。

それと、高齢の一人暮らしの方から、「商品を頼んだこともない通販会社から、メールが来た、これはなんだろうか」と聞かれたことがあり、「連絡したらダメですよ」と教えたことも何回もある。

A社しか頼まないのにB社から、「お届け先がわかりません、荷物が止まっています、問い合わせはURLをクリック」というメールが届き、URLをクリックすると、再び「SNSの方にお知らせします」と案内されると聞いたので、いろんな詐欺の手口を共有する場があればいいと思う。

実は、私の孫にも通販会社を装ったメールが届き、URLをクリックしてしまい、相手に住所、氏名などの個人情報を答えてしまった。途中で偽メールだと気づけばいいが、そのまま最後まで個人情報などを教えてしまうと、被害に遭ってしまうので、偽メールに誘導されたら怖いと思う。

今、本当に詐欺が身近な問題になっているので、この協議会で皆さんと共有できた詐欺の手口を商工会議所でも会員に共有したいと考えている。

(生活安全課長)

現在、警察ではプッシュ型広報という活動に取り組んでおり、地方公共団体主催の会議や企業主催の会合などに出席した機会に、特殊詐欺の事例を挙げて注意喚起を図ったり、詐欺対策アプリを紹介して、会議に参加された方に詐欺対策アプリを入れてください、知り合いに口コミで広げてください、と広報している。

(委員)

中学校や高校には？

(生活安全課長)

今は落ち着いているが、中学校・高校でネットに関する問題が多発したので、昨年から管内の中学校・高校の全校を訪問して情報モラル教室を行っている。

最近では、生成AIを使いたいじめや、SNSで悪口を言われたという事例が多いので、中高生を対象に情報モラル教室で注意喚起を図り、併せて闇バイトについても、ひっかからないようにする広報にも取り組んでいる。

(委員)

私は、便利なものほど怖いと思っている。我が家ではSNSを使っていないが、知人のグループで、私だけがSNSをやっていなかったのも、入れざるを得なくなった。

後輩にSNSの設定を頼んだら、同級生や遠方の友達から「よろしく」とか、いろんなメッセージが一気に200数件も入ってきた。このままだと大変なことになると思ったので、知人からすれば気分を害するかなと思いつつも、後輩に全部ブロックしてもらった。

このときの経験から、やはり、SNSは知らない人にもつながる怖さがあると感じた。多くの人がSNSを利用されているが、中には私のように、便利なものを使わない者がいてもいいのではないかなと思う。

(委員)

こういう文明の利器がありながら、全く使わなければ、SNSからの詐欺被害はゼロなので、何とも答えようのない、難しいところがある。

(生活安全課長)

私の父は、詐欺に遭わないようにSNSは一切使っていない。電話も自分が住んでいる地域の電話番号以外、知り合い以外は出ないようにしている。

(委員)

皆さんからいろんなご意見を頂いた。最後に詐欺電話の実例を聞きたいと思う。

(委員)

先々週のことだが、特殊詐欺の電話が実際にかかってきた。

実在する大手宅配業者を名乗り、「お宅の荷物が北海道の〇〇さんのところに届いている。岩国と宇部から発送されているが、おかしいと思ったので現在、止めている。中身を赤外線カメラで見たら、札束が入っている、凄い金額のお金が入っている」と言ってきた。

話を聞いていて、おかしいなと思い、これは詐欺だろうと思ったので、「あなたの言ってることはちょっと信じられない」というやりとりをしていると、電話の相手は「とにかくお金を確認してもらいたいのので、警察の方と話して下さい」と言い出し、どうしても警察官役と話させようとした。

結局、相手から「警察官と変わります」と言われたときに「大丈夫です。私、警察官にいっぱい知り合いがいるし、相談できる方も沢山いるんで」と言った途端、電話がガチャンと切れた。

(委員)

その電話は、プラスがついた番号から家の電話にかかってきたのか？

(委員)

家の電話にかかってきたので、母が電話に出なくてよかった。

(委員)

家の電話にプラスと表示されていたのか？

(委員)

私は、すぐに岩国警察署に電話して、「こういう詐欺の事例がありますか」と聞くと警察の方が、ナンバーディスプレイ見て下さいと言われたので、ディスプレイを見たが、非通知だった。

6 講評

やはり、協議会は警察の皆さんと出会う機会でもあり、詐欺の手口などの情報を共有できる機会でもあるので、大変有難い。

協議会委員として、警察の業務に携わらせていただいているので、詐欺電話の相手に「警察に知り合いがいるから相談する」と言える強みがある。だから警察に知り合いのいない一般の方にとっては、やはり詐欺電話はとても不安に感じるだろうと思う。

こうやって出会った警察や協議会委員の皆さんと情報を共有しながら1年間やっていきたいと思ったので、今日は、実際に私の家にかかってきた詐欺電話について紹介し、詐欺の手口を皆さんと共有できて良かった。

7 配布資料

警察業務説明資料

8 その他

(1) 監察関係事案説明

令和8年2月における警察職員の懲戒処分について説明した。

(2) 次回日程

次回会議は、令和8年10月に開催予定とした。